

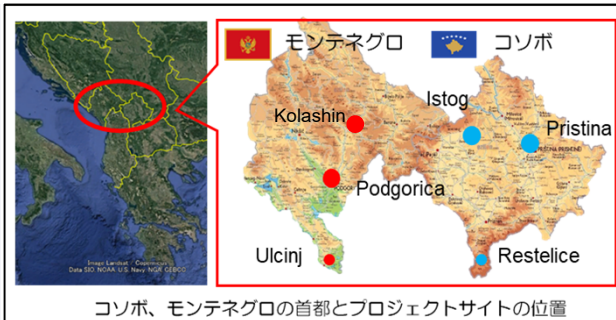
NFFIS & Eco-DRR Newsletter

Project on Capacity Building for Disaster Risk Reduction through
National Forest Fire Information System (NFFIS) and Eco-DRR
Mar 2021 - Feb 2026

国家森林火災情報システム（NFFIS）とEco-DRRによる 災害リスク削減のための能力強化プロジェクト

本プロジェクトの目的は、森林火災及びその他自然災害の防災・減災にかかる政府関係者の能力がNFFIS 及び生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）の導入を通じて強化されることです。

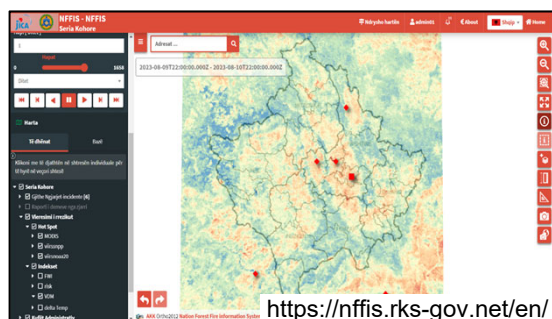
Vol6では、2023年9-12月の活動を報告いたします。



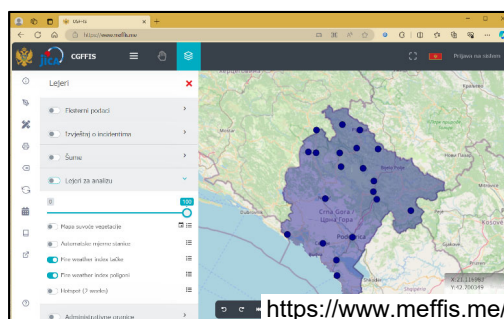
コソボ、モンテネグロの首都とプロジェクトサイトの位置

NFFIS Ver1 利用の開始と公開版の完成

コソボ、モンテネグロ両国においてNFFISの運用が始まり、火災多発時期における早期警戒情報の提供および火災情報の収集が初めて行われました。システムの動作自体に問題は出ませんでした。最初の実運用機会という事もあり、データ解析や情報入力に関する課題も見えてきました。この経験をもとに、システムの改善にむけた取り組みが既に始まっています。またNFFIS運用に関する法規細則の整備、解析精度向上のためコソボ、モンテネグロ及び先行する北マケドニアの3か国による自動気象観測データ(AWSデータ)の共有、森林火災以外の自然災害に関する情報の収集及び提供など、システムと運用の拡充に向けた取り組みも併せて進めていきます。



<https://nffis.rks.gov.net/en/>



<https://www.meffis.me/>

NFFISver1.1
(左：コソボ、
右：モンテネグロ)

Ecoグループの活動

防災減災を推進している本プロジェクトでは、住民啓発、環境教育にも力をいれています。具体的な活動の一つとして、Ecoグループの活動を支援しています。Ecoグループは社会活動や問題の議論を通じて、社会の生活の質の向上を目指します。

Restelice村の小学校には当初Ecoグループがなかったのですが、雪崩防止林の活動の一環としてEcoグループの結成を支援しました。9月の植樹祭では環境保護に関する寸劇をグループ員が披露してくれました。

Istog市では高校で既に活動していたEcoグループに対して、防風林やEco-DRRについて専門家が説明した上で、風害や防風林の効果を視覚的に示すテラリウムを作り、関係者にグループ員が説明しています。

Ulcinj市ではプロジェクト主導で行った環境教育に参加した学校の生徒達がEcoグループを結成して、海岸林の植栽活動に参加しました。24年には、海岸林における各種アクティビティや市役所等と協力した啓発活動を企画しています。

写真上：IstogのEcoグループが作ったテラリウム
写真下：UlcinjのEcoグループが参加した植栽活動



Istog市 防風林

Istog市では風害が最も深刻な自然災害となっており、2000年以降、その問題は深刻化しています。このため風害に対応した都市計画および防風林の設計、そして風害の緩和効果が期待できる森林を健全に維持、管理していくことが求められています。

こうした背景の下、Istog市の3学校で、簡易測量により距離と面積を測ったのち、防風林植樹エリアを決定し、現地で風害に強いとされるクロマツなど適切な植栽種により植林を行ないました。また、森林など地域で風の影響を受ける景観の種類を特定したのち、復元する上で問題となっている事項の特定し、復旧に向けた解決策を立案するための調査を行ないました。

2023年11月17日にはIstog市長の出席の下、植樹祭を開催しました。植樹祭では植樹のほか、Haxhi Zeka高校のエコグループによる、1)テラリウム作成による耐風デモンストレーション、2)植樹した樹種の説明と展示、3)Istogの豊かな文化と伝統を紹介する文化伝統のプレゼンテーションを行いました。

今後の展開として、3学校で行った活動を他の学校へ普及すること、防風林ハンドブックの作成、防風林活動をIstog市の都市計画に組み入れていくことなどを計画しています。



写真左：
伝統衣装を着た高校生
による防風林の説明

写真上：
植樹祭の様子（Istog
市長による植樹）

Kolashin市 森林火災跡地植生回復

モンテネグロでは、森林火災面積は増加傾向にあり、火災跡地は二次的被害を誘引する可能性もあるため、植生回復を早期に促進するための効果的な技術体系の確立が課題となっています。

このため、生態系を活用した防災・減災の技術の一環として、森林火災跡地での植生回復に関する活動を昨年開始しました。活動内容は、トウヒやマツの植林が主ですが、その他にも、土壌浸食防止を目的とした丸太や枝木を用いた柵工、また天然更新補助作業として、刈出し（高木になる稚樹以外のものを刈払う作業）、植込み（稚樹の更新が少ない箇所に植栽する作業）、地がき（稚樹の生育を妨げる腐葉土層などを掻き起こす作業）等を行いました。

特に天然更新補助作業については、同国で過去の実事例はほとんどないこともあり、調査区画を設定して、今後定期的に植生調査を行うことにしました。成果が出れば、低コストでの森林再生につながる技術として活用が期待されます。

写真上：土壌浸食防止工（柵工）
写真下：天然更新補助作業（植込み）



成果毎の活動サマリー

コソボ・モンテネグロ成果1

- NFFISver1.1利用開始
- NFFIS公開版完成
- NFFISのガイドライン等作成

コソボ成果2

- 雪崩防止林追加植林の実施
- 防風林活動の実施

モンテネグロ成果2

- 海岸林の植林（約2,300本）実施
- 火災跡地植生回復の活動実施

Instagram,
Facebook
フォロー
ください！



プロジェクトFacebook
<https://www.facebook.com/WestBalkanNFFISandEcoDRRProject>



コソボ内務省危機管理庁
Emergency Management
Agency (EMA)



モンテネグロ内務省
保護救助局
Rescue and
Protection
Directorate (RPD)



国際協力機構
Japan International
Cooperation
Agency (JICA)